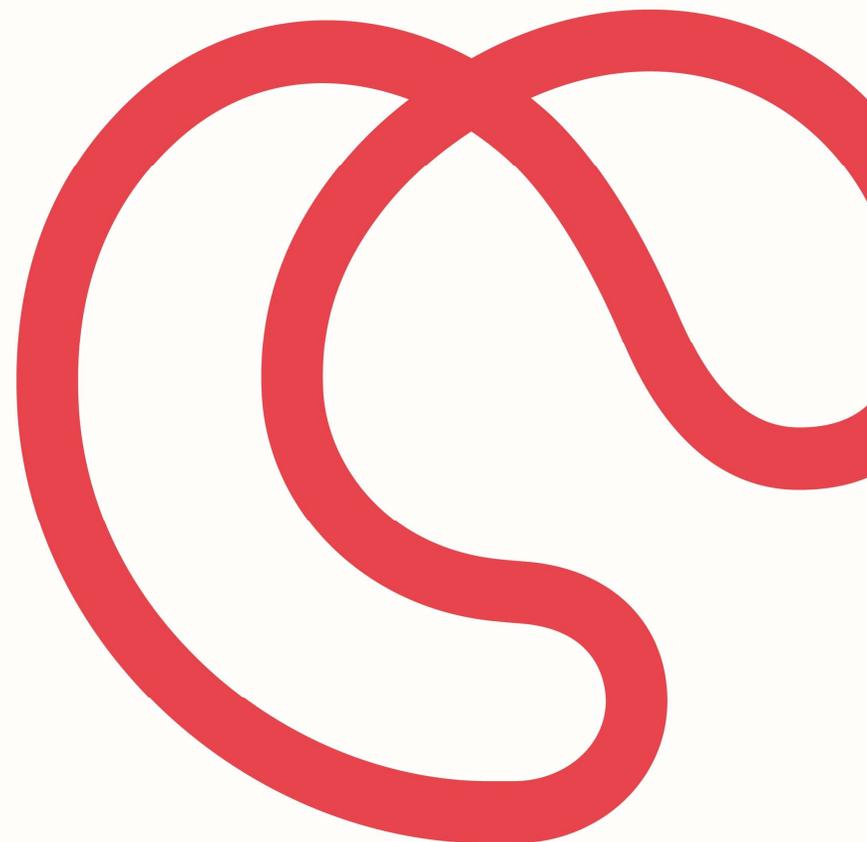


2025年度第3四半期決算サマリー 及び業績見通し

2026年2月10日
株式会社 シャルレ

CHARLE



1. [連結] 2025年度第3四半期業績サマリー及び2025年度業績見通し
2. [単体] 2025年度第3四半期業績サマリー
3. レディースインナー事業における収益改善の取り組み
4. 中期（2026年～2028年度）損益見通し [連結]

いつも、私らしく輝ける場所がある。



25年度第3四半期 実績サマリー及び業績見通し [グループ連結]

■連結：25年度第3四半期実績サマリー（前年同期比）

	24年度第3Q	25年度第3Q	差異
売上高	9,166	10,321	1,154
売上原価	5,011	6,269	1,257
売上総利益	4,155	4,052	▲102
販売費および一般管理費	4,430	4,538	108
営業損失	▲275	▲485	▲210
経常損失	▲257	▲435	▲178
税金等調整前四半期純損失	▲263	▲2,739	▲2,475
親会社株主に帰属する四半期純損失	▲277	▲2,873	▲2,596

■連結：25年度業績見通し

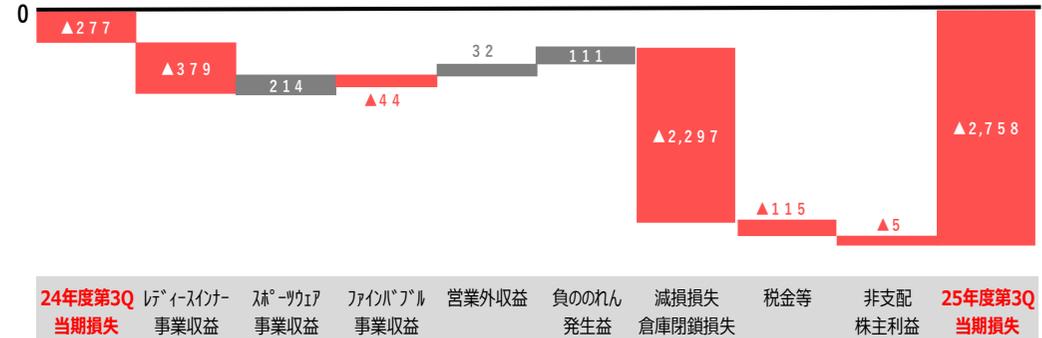
	前回発表予想	今回修正予想	差異
売上高	14,600	13,230	▲1,370
営業利益（損失）	145	▲710	▲855
経常利益（損失）	170	▲660	▲830
親会社株主に帰属する四半期純利益（損失）	190	▲3,130	▲3,320

■連結：25年度第3四半期事業セグメント別実績サマリー（前年同期比）

[単位：百万円]

	売上高			セグメント利益（損失）		
	24年度第3Q	25年度第3Q	差異	24年度第3Q	25年度第3Q	差異
レディースインナー事業	8,826	8,656	▲169	▲197	▲576	▲379
スポーツウェア事業	—	1,329	1,329	—	214	214
ファインバブル事業	362	379	17	▲43	▲88	▲44
その他	—	26	26	—	13	13
消去又は全社	▲22	▲70	▲48	▲34	▲49	▲14
合計	9,166	10,321	1,155	▲275	▲485	▲210

■連結：25年度第3四半期四半期純損失増減分析（前年同期比）



【第3四半期実績サマリー】

■レディースインナー事業における売上高は前年を下回ったが、2025年5月にオンヨネ株式会社のグループ化により、当第3四半期連結会計期間において、連結売上高は103.2億円（前年同四半期+11.5億円）と前年を上回る結果となった。

■レディースインナー事業における減損損失（23.4億円）計上の影響により、四半期純利益は28.7億円（前年同四半期▲25.9億円）の純損失となった。

【25年度業績見通し】

■連結売上高は、132.3億円（前年対比114.5%）と前年を上回る見通しとなったが、レディースインナー事業における既存定番の売上減少に加え、数量限定商品の販売不振による棚卸資産評価損の発生に伴い、当連結会計年度の四半期純利益は、31.3億円（前年同期純損失10.1億円）の純損失見通しとなる。

いつも、私らしく輝ける場所がある。



25年度第3四半期 実績サマリー [レディースインナー事業]

[単位：百万円]

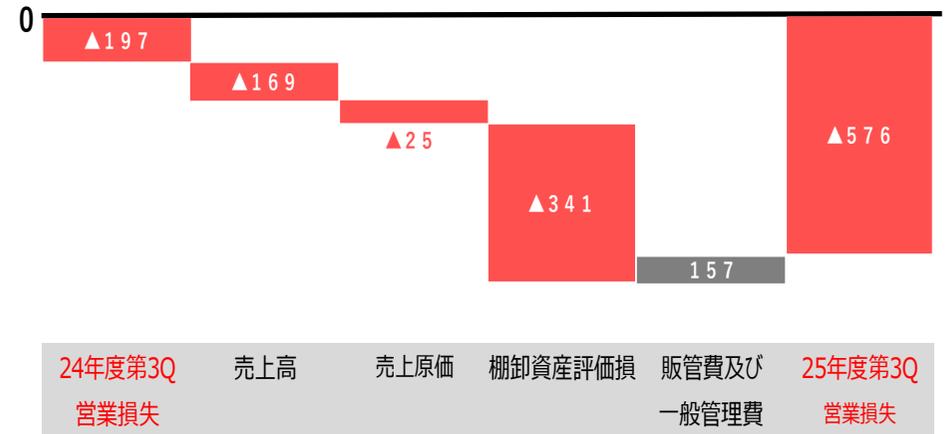
■単体：25年度第3四半期レディースインナー事業実績サマリー（前年同期比）

	売上高			セグメント利益（損失）		
	24年度第3Q	25年度第3Q	差異	24年度第3Q	25年度第3Q	差異
レディースインナー事業	8,826	8,656	▲ 169	▲ 197	▲ 576	▲ 379

■単体：25年度第3四半期商材セグメント別実績サマリー（前年同期比）

	売上高		
	24年度第3Q	25年度第4Q	差異
繊維	6,227	6,022	▲ 205
化粧品	1,575	1,516	▲ 59
健康食品	757	706	▲ 51
その他	266	412	146
合計	8,826	8,656	▲ 169

■単体：25年度第3四半期営業損失増減分析（前年同期比）



【第3四半期実績サマリー】

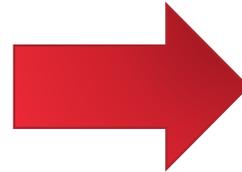
- レディースインナー事業の売上高は、原材料等の高騰により、既存定番商品の値上げを2025年6月に行ったものの、その後反動減の影響が見受けられた。主に繊維類の既存定番商品を中心に低調に推移し、当第3四半期会計期間における売上高は86.5億円（前年同四半期▲1.6億円）となった。
- 数量限定商品全体の売上高は、前年並みに推移したが、衣料品を中心とした数量限定商品の販売計画に対してはを大幅に下回る実績となったことから、棚卸資産評価損が増加（3.4億円）し、営業利益は5.7億円（前年同期営業損失1.9億円）の損失となった。

【収益を押し下げている3つの経営課題】

商品原価（利益率低下）

システム費（負担増）

人件費（生産性）



【対応策】

- ・商品ポートフォリオの見直し
- ・仕入コストリダクション
- ・在庫ロス軽減策
- ・顧客サービスの最適化
- ・デジタル化による業務の効率化

事業スケールに合わせたコスト構造の改善に取り組む

CHARLE レディースインナー事業における収益改善の取り組み②

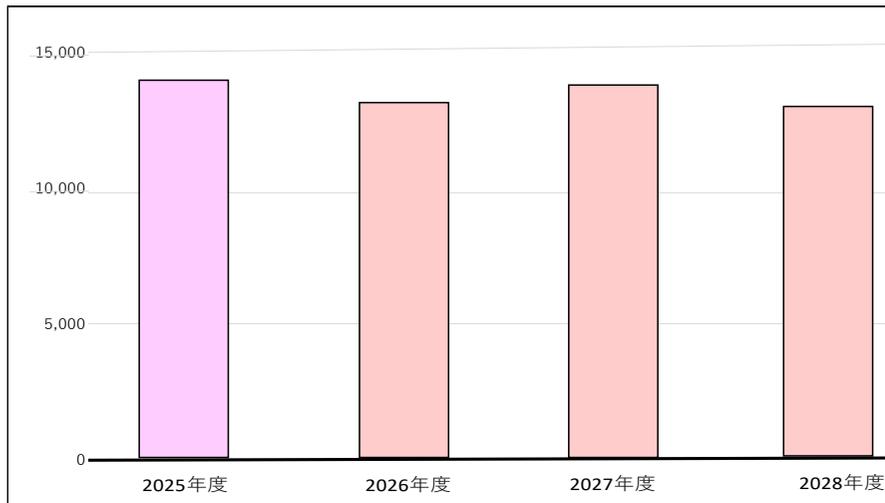
主な取り組み	内容	効果・目標（中期）
1. 商品ポートフォリオの見直し	①化粧品・健康食品売上シェア拡大 （新定番やリニューアル） ②低利益商材の改廃 ③グループシナジーによる新商品開発	①売上シェア6%拡大 ②低利益商材45品番廃番 ③新商材の投入
2. 仕入コストリダクション	①商品調達方法の見直し （新規仕入先・生産国の見直し）	①粗利率3%増
3. 在庫ロス軽減策	①マーケティング・プロモーションの強化 ②需要予測精度の向上 （販売方法や調査手法の見直し）	①・②売上対比在庫ロス率5%低減
4. 顧客サービスの最適化	①受発注システムの統廃合 ②利用率や効果にマッチしたサービス	①・②システム費低減に向けた業務改廃や再体制構築
5. デジタル化による業務削減	①社内管理業務のデジタル化やAI活用の推進 ②社内機能やシステムの統廃合 （重複業務の見直し）	①・②全社業務工数の削減15%相当

いつも、私らしく輝ける場所がある。

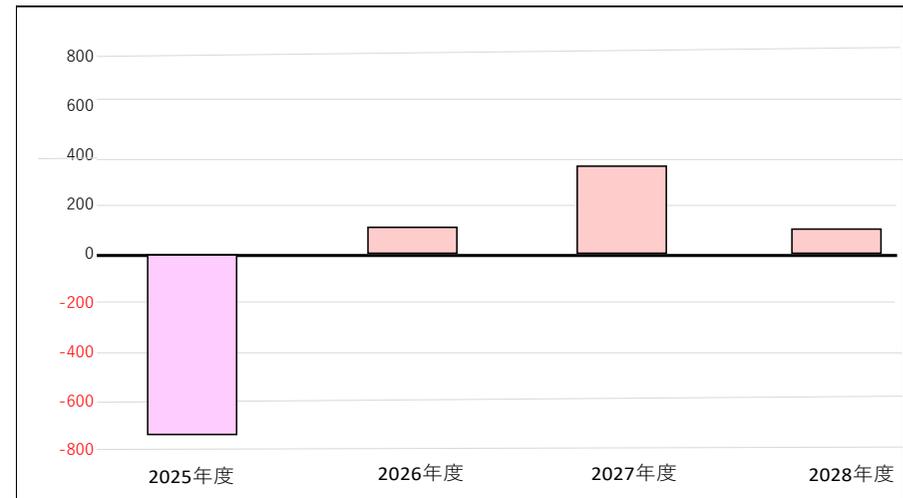
CHARLE 中期（2026年～2028年度）損益見通し [連結]

[単位：百万円]

売上高



営業利益



【連結売上高見通し】

■2026年度は、レディースインナー事業における現状のダウントレンドを鑑み、連結売上高は減少を見込む。2027年度は新商品の投入や新規ビジネスメンバーの育成効果により、連結売上高の拡大を図る。2028年度は販売組織の高齢化に加え、ビジネスモデルの転換による顧客の離反が予想されることから、連結売上高は一時的に減少する見込み。

【連結営業利益見通し】

■レディースインナー事業における収益改善策によるコスト構造の見直しを推進することで、2026年度より黒字化を図る。但し、2028年度は前述のビジネスモデルの転換による大規模なシステム投資を予定しているため、連結営業利益は減少する見込み。